

【フレーム切手デザイン】

大鵬
第四十八代横綱

写真協力: 大鵬企画、ベースボール・マガジン社
発注: 木下大門 画

NIPPON 80 NIPPON 80

NIPPON 80 NIPPON 80 NIPPON 80 NIPPON 80

NIPPON 80 NIPPON 80 NIPPON 80 NIPPON 80

○ 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
○ 郵便料全納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

© 日本郵便株式会社 発行

【参考】

表紙部分は、大鵬の画像を選定しています。

また、切手部分は、大鵬の画像や錦絵の画像等を選定しています。

本フレーム切手セットは、「台紙」および「てぬぐい」が付属します。

【台紙デザイン】

大鵬幸喜

第四十八代横綱 **大鵬** (本名) 納谷 幸喜 (1940-2013)

1940年(昭和15年)5月29日生 身長187cm、血液型はB型。
 偉大奮闘期を駆け抜けて、北海道川上郡弟子屈町で育った。
 父業はウクライナ人のマルキャン・ボリシユ、母業は日本人の納谷幸喜である。
 納谷は母の姓である。

1960年代に活躍し、ライバルといわれた他戸とともに「他業（はくはう）時代」と呼ばれる大鵬興の黄金期を築いた。優勝32回、6連覇2回、45連勝などを記録し、昭和の大横綱と評され、戦後最強の横綱と称された事もある。

幕内優勝優勝32回は2009年(平成21年)当時、最多優勝記録である。様々な豪子と打ち立てたが、胸に入幕(1960年)から引退(1971年)までの12年間、毎年必ず幕内(同は優勝した記録は「一軍敗れれば引退」と言われる)。

他戸の子供の好きなものも食べた「巨人・大鵬・相撲」という言葉からも、当時の大鵬の人気と知名度がわかる。また、酒豪としても有名でかつの酒量は4合瓶で5升を空け、毎日の新聞にははちというエピソードもあるほど。

1940年	5月29日、旧幕大(現・ツウリン)生まれ
1947年	小学1年生 弟子屈町立前内西小学校 小学2年生 弟子屈町立弟子屈小学校 小学3年生 釧路町立富原小学校 小学4年生 夕張市立南郷小学校 小学5・6年生 弟子屈町立川湯小学校(現在廃校あり)
1956年	弟子屈高校(工学)を中退し、二所ノ岡部屋に入門(師匠:大鵬 信實ノ若)
1959年	9月幕所 16歳で初土俵
1959年	5月幕所にて十両入り、「大鵬」と改名
1960年	1月幕所にて新入幕。11月九州場所にて初優勝、場所後、大鵬に昇進(20歳)
1961年	7月幕所、9月幕所と2場所連続優勝して(他戸と共に)21歳3ヵ月、当時史上最年少)第4日休養中に欠け(入幕から1年10ヵ月)
1961年	この年、三賞・敢闘賞2回、技能賞1回、殊勲1回
1969年	総経歴賞(以後7回優勝も受賞)
1970年	日本プロスポーツ大賞
1971年	現役引退
	優勝32回(史上最多) 2度の6連覇 連覇成績:872勝 182敗 136休 幕内連勝:746勝 144敗 136休 (幕内勝率83.8%) 30回優勝を記念して相撲協会より一代年寄り「大鵬」を贈られる
1972年	12月に設立して「大鵬 部屋」を設立し、後進の指導にあたる
1976年	財団法人 日本相撲協会 役員待遇 専務副部長
1977年	臨時委員で勤めたが、闘病の末に引退
1978年	財団法人 日本相撲協会 理事兼任 地方場所部長
1982年	ライオンズクラブ国際協会 入会士兼大賞
1991年	弟子屈町名誉町長(第1号)
1994年	財団法人 日本相撲協会 理事兼国際交流公使館館長
1996年	財団法人 日本相撲協会 役員待遇副理事長兼副理事長
1996年	スポーツ功労者
1997年	東京アマテラスクラブ プロスポーツ賞
2000年	北海道国民栄誉賞
2004年	秋の敢闘 総経歴賞
2004年	大鵬 部屋を家傳の買取りで売却(大鵬部屋)継承
2005年	財団法人 日本相撲協会 総務部長 兼 委員長
2005年	スポーツ功労賞(北海道新選組)
2008年	東京都江東区名誉区民
2008年	財団法人 日本相撲協会 総裁
2009年	文化功労者
2011年	友好勲章(ウクライナ)
2013年	正四位勲位 国民栄誉賞

【手ぬぐいデザイン】

